

談話室マロニエSOYPASTE演習期の数学

1 二次関数

2 二次関数

3 二次関数

4 二次関数

5 二次関数

6 二次関数

7 二次関数

8 二次関数

9 二次関数

10 二次関数

11 二次関数

12-1 (r2-2)

xy 平面上に 3 点 $O(0, 0)$, $A(3, 0)$, $B(1, 1)$ をとる. 実数 s, t が,

$$s \geq 0, \quad t \geq 0, \quad s + 2t \leq 1$$

を満たして動くとき, $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ によって定まる点 P の動く範囲の面積を求めよ.

$t \geq 0, s + 2t \leq 1$ において, $2t = t'$ とすると,
 $t' \geq 0, s + t' \leq 1.$ … ①

また,

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + 2t \left(\frac{1}{2}\vec{OB} \right)$$

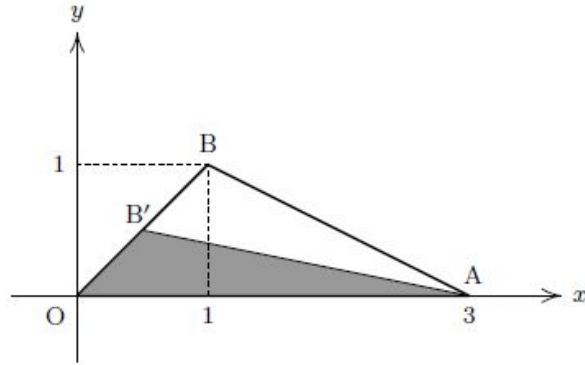
であるから,

$$\frac{1}{2}\vec{OB} = \vec{OB}'$$

とすると,

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t'\vec{OB}'. \quad \dots \text{②}$$

①, ②と $s \geq 0$ より, P は三角形 OAB' の周および内部の点.



したがって, 求める面積は,

$$\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot \frac{1}{2} = \frac{3}{4}.$$

12-2 (r10-2)

三角形 OAB において, 辺 OB の中点を M , 辺 OA を $h : (1-h)$ ($0 < h < 1$) に内分する点を D とし, 線分 AM, BD の交点を E とする.

(1) $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}$ とするとき, \vec{OE} を \vec{a}, \vec{b} および h を用いて表せ.

(2) $|\vec{OA}| = 3, |\vec{OB}| = 4, \angle AOB = 60^\circ, |\vec{AE}| = \frac{\sqrt{7}}{2}$ のとき, h の値を求めよ.

12 枚の札から 3 枚の札を取り出す方法は,

$${}_{12}C_3 = 220 \text{ 通り}$$

あり, これらは同様に確からしい.

(1) 3 枚がすべて同じマークになる札の取り出し方は,

$$4 \text{ 通り}$$

であるから, 求める確率は,

$$\frac{4}{220} = \frac{1}{55}.$$

(2) 3 枚がすべて同じ数字になる札の取り出し方は,

$$3 \times {}_4C_3 = 12 \text{ 通り}$$

であるから, 求める確率は,

$$\frac{12}{220} = \frac{3}{55}.$$

(3) 3 枚のマークがすべて異なる札の取り出し方は,

$${}_4C_3 \times 3! = 108 \text{ 通り}$$

であるから, 求める確率は,

$$\frac{108}{220} = \frac{27}{55}.$$

(4) 3 枚のマークがすべて異なり, かつ数字もすべて異なる札の取り出し方は,

$${}_4C_3 \times 3! = 24 \text{ 通り}$$

であるから, 求める確率は,

$$\frac{24}{220} = \frac{6}{55}.$$

12-3 (r34-2)

$\vec{a} = (4, 3)$, $\vec{b} = (x, -4)$ とする. このとき, $3\vec{a} + 2\vec{b}$ と $2\vec{a} + \vec{b}$ が平行になるのは $x = (\quad)$ のときで, 垂直になるのは $x = (\quad)$ のときである.

\vec{a} と \vec{b} の定め方より,

$$\begin{cases} 3\vec{a} + 2\vec{b} = (12 + 2x, 1), \\ 2\vec{a} + \vec{b} = (8 + x, 2). \end{cases}$$

これより, $3\vec{a} + 2\vec{b}$ と $2\vec{a} + \vec{b}$ が平行になる条件は,

$$(12 + 2x) \cdot 2 - 1 \cdot (8 + x) = 0$$

$$3x + 16 = 0$$

であるから,

$$x = -\frac{16}{3}.$$

また, $3\vec{a} + 2\vec{b}$ と $2\vec{a} + \vec{b}$ が垂直になる条件は,

$$(12 + 2x)(8 + x) + 1 \cdot 2 = 0$$

$$2x^2 + 28x + 98 = 0$$

$$2(x + 7)^2 = 0$$

であるから,

$$x = -7.$$

12-4 (r35-1)

空間に定点 $A(0, 4, 2)$, $B(2\sqrt{3}, 2, 2)$ と動点 $P(0, 0, p)$ がある. $\angle APB$ の大きさの最大値と, そのときの p の値を求めよ.

A, B, P の定め方より,

$$\vec{PA} = (0, 4, 2 - p),$$

$$\vec{PB} = (2\sqrt{3}, 2, 2 - p)$$

であるから,

$$\begin{aligned} \cos \angle APB &= \frac{\vec{PA} \cdot \vec{PB}}{|\vec{PA}| |\vec{PB}|} \\ &= \frac{8 + (2 - p)^2}{\sqrt{16 + (2 - p)^2} \sqrt{12 + 4 + (2 - p)^2}} \\ &= \frac{(p - 2)^2 + 8}{(p - 2)^2 + 16} \\ &= 1 - \frac{8}{(p - 2)^2 + 16}. \end{aligned}$$

ここで,

$$\angle APB \text{ が最大} \iff \cos \angle APB \text{ が最小}$$

$$\iff (p - 2)^2 + 16 \text{ が最小}$$

が成り立つので, $\angle APB$ は $p = 2$ のとき最大値

$$\frac{\pi}{3}$$

をもつ.

12-5 (r28-1)

座標空間に4点A(1, 0, 1), B(-1, 2, -5), C(-3, 1, -5), D(-3, 0, -3)をとる.

(1) $\vec{AB} = \vec{p}$, $\vec{AD} = \vec{q}$ とするとき, 三角形 ABD の面積は,

$$\frac{1}{2} \sqrt{|\vec{p}|^2 |\vec{q}|^2 - (\vec{p} \cdot \vec{q})^2}$$

に等しいことを示せ.

(2) 点Cは, 3点A, B, Dで定まる平面上にあることを示せ.

(3) 四辺形 ABCD の面積を求めよ.

(1) \vec{p} と \vec{q} のなす角を θ とすると,

$$\begin{aligned} \Delta ABD &= \frac{1}{2} |\vec{p}| |\vec{q}| \sin \theta \\ &= \frac{1}{2} |\vec{p}| |\vec{q}| \sqrt{1 - \cos^2 \theta} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{p}|^2 |\vec{q}|^2 (1 - \cos^2 \theta)} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{p}|^2 |\vec{q}|^2 - (|\vec{p}| |\vec{q}| \cos \theta)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{p}|^2 |\vec{q}|^2 - (\vec{p} \cdot \vec{q})^2} \end{aligned}$$

であるから, 示せた.

(2) $\vec{AC} = \alpha \vec{AB} + \beta \vec{AD}$ とすると,

$$(-4, 1, -6) = \alpha(-2, 2, -6) + \beta(-4, 0, -4)$$

であるから,

$$\begin{cases} -2\alpha - 4\beta = -4, \\ 2\alpha = 1, \\ -6\alpha - 4\beta = -6. \end{cases}$$

これを満たす α, β は,

$$\alpha = \frac{1}{2}, \quad \beta = \frac{3}{4}$$

であるから, Cは3点A, B, Dで定まる平面上にある.

(3) (2)より,

$$\begin{aligned} \vec{AC} &= \frac{1}{2} \vec{AB} + \frac{3}{4} \vec{AD} \\ &= \frac{5}{4} \left(\frac{2\vec{AB} + 3\vec{AD}}{5} \right) \end{aligned}$$

であるから, 四辺形 ABCD の面積を S とすると,

$$S = \frac{5}{4} \Delta ABD.$$

また, (1)より,

$$\begin{aligned} \Delta ABD &= \frac{1}{2} \sqrt{44 \cdot 32 - 32^2} \\ &= 4\sqrt{6}. \end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned} S &= \frac{5}{4} \times 4\sqrt{6} \\ &= 5\sqrt{6}. \end{aligned}$$

12-6 (r23-2)

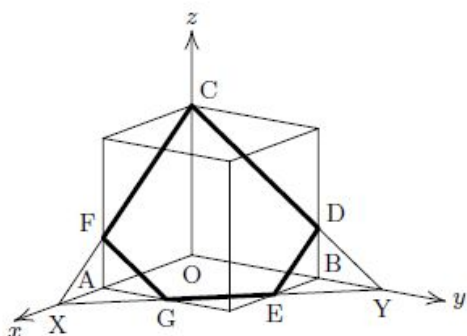
xyz 空間に, 原点を O とし, 3点A(6, 0, 0), B(0, 6, 0), C(0, 0, 6)をとる.

OA, OB, OCを辺にもつ立方体を K とし, 3点C, D(0, 6, 2), E(3, 6, 0)を通る

平面を α とする. このとき, 立方体の内部にある平面 α の部分の面積を求めよ.

直線 CD と y 軸との交点を Y, 直線 YE と x 軸との交点を X とすると,

$$X(9, 0, 0), Y(0, 9, 0).$$



このとき, 平面 α は 3 点 C, X, Y を通るので, 図のように 2 点 F(6, 0, 2), G(6, 3, 0) を定めると, 立方体の内部にある平面 α の部分は五角形 CFGED である.

さらに,

$$\triangle FGX \equiv \triangle DEY$$

であるから, 求める面積を S とすると,

$$S = \triangle CXY - 2\triangle DEY.$$

ここで,

$$\vec{CX} = (9, 0, -6), \vec{CY} = (0, 9, -6)$$

なので,

$$\begin{aligned} \triangle CXY &= \frac{1}{2} \sqrt{117 \times 117 - 36^2} \\ &= \frac{27\sqrt{17}}{2}. \end{aligned}$$

また,

$$\vec{YD} = (0, -3, 2), \vec{YE} = (3, -3, 0)$$

なので,

$$\begin{aligned} \triangle DEY &= \frac{1}{2} \sqrt{13 \times 18 - 9^2} \\ &= \frac{3\sqrt{17}}{2}. \end{aligned}$$

以上より,

$$S = \frac{21\sqrt{17}}{2}.$$

12-7 (r24-1)

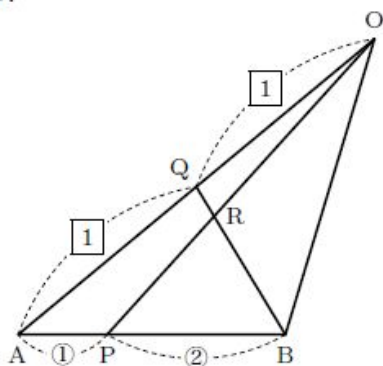
四面体 OABC において, $OB = OC = 1$, $\angle AOB = \angle BOC = \angle COA = \frac{\pi}{3}$ とする.

三角形 OAC の重心を G, 辺 AB を 1 : 2 に内分する点を P, 辺 OA の中点を Q とし, 2 直線 OP, BQ の交点を R とする. $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とする.

(1) \vec{OR} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.

(2) $\vec{BG} \perp \vec{CR}$ であるとき, 辺 OA の長さを求めよ. さらに, 線分 CR の長さを求めよ.

三角形 OAB と 3 点 P, Q, R を図示すると, 次の図のようになる.



(1) P, Q の定め方より,

$$\begin{cases} \vec{OP} = \frac{1}{3}(2\vec{OA} + \vec{OB}), \\ \vec{OQ} = \frac{1}{2}\vec{OA}. \end{cases}$$

R が直線 OP 上の点より,

$$\vec{OR} = \frac{2}{3}s\vec{OA} + \frac{1}{3}s\vec{OB}. \quad \dots \textcircled{1}$$

また, R が直線 BQ 上の点より,

$$\begin{aligned} \vec{OR} &= (1-t)\vec{OB} + t\vec{OQ} \\ &= \frac{1}{2}t\vec{OA} + (1-t)\vec{OB}. \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ②より,

$$\begin{cases} \frac{2}{3}s = \frac{1}{2}t, \\ \frac{1}{3}s = 1-t. \end{cases}$$

これを解くと,

$$s = \frac{3}{5}, \quad t = \frac{4}{5}$$

であるから,

$$\vec{OR} = \frac{2}{5}\vec{OA} + \frac{1}{5}\vec{OB}.$$

(2) $OA = x$ とすると, 条件より,

$$\begin{cases} \vec{OA} \cdot \vec{OB} = \frac{1}{2}x, \\ \vec{OB} \cdot \vec{OC} = \frac{1}{2}, \\ \vec{OC} \cdot \vec{OA} = \frac{1}{2}x. \end{cases} \quad \dots \textcircled{3}$$

また, G の定め方より,

$$\begin{aligned} \vec{BG} &= \vec{OG} - \vec{OB} \\ &= \frac{1}{3}(\vec{OA} + \vec{OC}) - \vec{OB} \\ &= \frac{1}{3}(\vec{OA} - 3\vec{OB} + \vec{OC}). \quad \dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

さらに, (1) の結果より,

$$\begin{aligned} \vec{CR} &= \vec{OR} - \vec{OC} \\ &= \frac{1}{5}(2\vec{OA} + \vec{OB} - 5\vec{OC}). \quad \dots \textcircled{5} \end{aligned}$$

ここで, $\vec{BG} \perp \vec{CR}$ のとき,

$$\vec{BG} \cdot \vec{CR} = 0.$$

$OB = OC = 1$ であることと, ③, ④, ⑤より,

$$2x^2 - 3 - 5 - \frac{5}{2}x + 8 - \frac{3}{2}x = 0$$

$$2x^2 - 4x = 0$$

$$2x(x - 2) = 0$$

であり, $x > 0$ なので,

$$OA = x = 2.$$

したがって, ⑤より,

$$|\vec{CR}|^2 = \left(\frac{1}{5}\right)^2 |2\vec{OA} + \vec{OB} - 5\vec{OC}|^2$$

$$= \frac{1}{25}(16 + 1 + 25 + 4 - 5 - 20)$$

$$= \frac{21}{25}$$

であるから,

$$CR = \frac{\sqrt{21}}{5}.$$

12-8 (j1-3)

三角形 ABC において $\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{OC}$ である点 O が三角形 ABC の外心であり, 三角形 ABC の外接円の半径は r であるとする. このとき, 辺 AB の長さを求めよ.

$$\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{OC} \text{ より,}$$

$$|\vec{OA} + \vec{OB}|^2 = |\vec{OC}|^2$$

であるから,

$$|\vec{OA}|^2 + 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + |\vec{OB}|^2 = |\vec{OC}|^2.$$

これと, $OA = OB = OC = r$ より,

$$\vec{OA} \cdot \vec{OB} = -\frac{1}{2}r^2.$$

したがって,

$$\begin{aligned} |\vec{AB}|^2 &= |\vec{OB} - \vec{OA}|^2 \\ &= |\vec{OA}|^2 - 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + |\vec{OB}|^2 \\ &= 3r^2 \end{aligned}$$

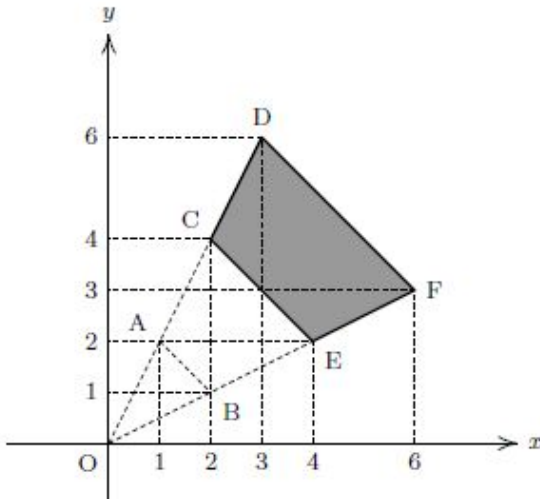
であるから,

$$AB = \sqrt{3}r.$$

12-9 (j2-2)

O を原点とする座標平面上に, 2点 A(1, 2), B(2, 1) がある. この平面上の動点 P は $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ で表されるものとする.

実数 s, t が不等式 $s \geq 0, t \geq 0, 2 \leq s + t \leq 3$ を満たすすべての値をとるとき, P の動く領域の面積は () である.



求める面積を S とすると,

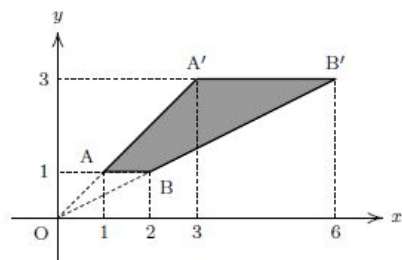
$$\begin{aligned} S &= \triangle OFD \times \frac{5}{9} \\ &= \frac{1}{2} |3 \times 3 - 6 \times 6| \times \frac{5}{9} \\ &= \frac{15}{2}. \end{aligned}$$

12-10 (s2-2)

平面上において、原点 O と 2 点 $A(1, 1)$, $B(2, 1)$ に対して、 $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ で定められる点 P について考える。

- (1) 定数 s, t が条件 $s \geq 0, t \geq 0, 1 \leq s+t \leq 3$ を満たしながら変わるとき、点 P の描く図形の面積を求めよ。
- (2) (1) の点 P に対して、内積 $\vec{OA} \cdot \vec{OP}$ の最大値と最小値を求めよ。

(1) $A'(3, 3)$, $B'(6, 3)$ とすると、点 P の描く図形は四角形 $ABB'A'$ (2) $P(x, y)$ に対して、



したがって、点 P の描く図形の面積を S とすると、

$$S = \frac{1}{2}(1+3) \times 2 = 4.$$

$$\vec{OA} \cdot \vec{OP} = k$$

とすると、

$$x + y = k.$$

これより、

$$y = -x + k \quad \dots (*)$$

であるから、(*) は傾きが -1 , y 切片の直線を表す。

したがって、(*) が (1) で求めた領域と共有点をもちながら変化するときの y 切片の動きを調べればよい。

k が最大となるのは (*) が点 B' を通るときであり、 k が最小となるのは (*) が点 A を通るときであるから、 $\vec{OA} \cdot \vec{OP}$ の最大値は 9 、最小値は 2 。

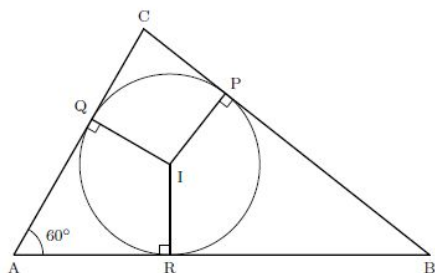
12-11 (s3-2)

$\angle A = 60^\circ$ である三角形 ABC に内接する半径 1 の円の中心を I とし、3 辺 BC, CA, AB と、この円との接点をそれぞれ P, Q, R とする。ベクトル $\vec{IP}, \vec{IQ}, \vec{IR}$ は、

$$7\vec{IP} + 5\vec{IQ} + s\vec{IR} = \vec{0}$$

を満たすとする。ただし、 $s > 0$ とする。

- (1) 内積 $\vec{IQ} \cdot \vec{IR}$ を求めよ。
- (2) s の値を求めよ。
- (3) \vec{IB} と \vec{IR} のなす角を α とするとき、 $\cos 2\alpha$ および $\tan \alpha$ の値を求めよ。
- (4) 三角形 IAB の面積を求めよ。



(1) Q, R の定め方と $\angle A = 60^\circ$ より,

$$\angle QIR = 120^\circ.$$

これと, $|\vec{IQ}| = |\vec{IR}| = 1$ より,

$$\vec{IQ} \cdot \vec{IR} = -\frac{1}{2}.$$

(2)
$$7\vec{IP} + 5\vec{IQ} + s\vec{IR} = \vec{0} \quad \dots (*)$$

より,

$$\begin{aligned} & |5\vec{IQ} + s\vec{IR}|^2 = |-7\vec{IP}|^2 \\ & 25|\vec{IQ}|^2 + 10s\vec{IQ} \cdot \vec{IR} + s^2|\vec{IR}|^2 = 49|\vec{IP}|^2. \\ & |\vec{IP}| = |\vec{IQ}| = |\vec{IR}| = 1 \text{ と (1) の結果より,} \\ & 25 - 5s + s^2 = 49 \\ & s^2 - 5s - 24 = 0 \\ & (s-8)(s+3) = 0. \end{aligned}$$

$s > 0$ より,

$$s = 8.$$

(3) (2) の結果より, (*) は,

$$7\vec{IP} + 5\vec{IQ} + 8\vec{IR} = \vec{0}$$

であるから,

$$\begin{aligned} & |7\vec{IP} + 8\vec{IR}|^2 = |-5\vec{IQ}|^2 \\ & 49 + 112\vec{IP} \cdot \vec{IR} + 64 = 25 \end{aligned}$$

$$\vec{IP} \cdot \vec{IR} = -\frac{11}{14}.$$

さらに, α の定め方より, $\angle PIR = 2\alpha$ であるから,

$$\cos 2\alpha = -\frac{11}{14}.$$

これより,

$$2\cos^2 \alpha - 1 = -\frac{11}{14}$$

$$\cos^2 \alpha = \frac{3}{28}$$

$$1 + \tan^2 \alpha = \frac{28}{3}$$

$$\tan^2 \alpha = \frac{25}{3}.$$

$\tan \alpha > 0$ より,

$$\tan \alpha = \frac{5}{\sqrt{3}}.$$

(4) $AR = IR \tan 60^\circ$, $BR = IR \tan \alpha$ であるから,

$$AB = \sqrt{3} + \frac{5}{\sqrt{3}} = \frac{8\sqrt{3}}{3}.$$

したがって,

$$\Delta IAB = \frac{1}{2} \cdot \frac{8\sqrt{3}}{3} \cdot 1 = \frac{4\sqrt{3}}{3}.$$

12-12 (j10-2)

平行四辺形 ABCD の辺 CD, DA を 1 : 2 に内分する点をそれぞれ E, F とする.

(1) $\vec{AB} = \vec{b}$, $\vec{AC} = \vec{c}$ とするとき, \vec{AF} , \vec{BD} , \vec{EF} をそれぞれ \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ.

(2) 頂点 A を通り, 直線 BD に平行な直線と線分 EF の延長との交点を L とするとき, EF : FL を求めよ.

(3) 線分 AE と線分 BF の交点を P とするとき, AP : PE および BP : PF を求めよ.

四角形 ABCD が平行四辺形であるから,

$$\begin{aligned} \vec{AD} &= \vec{BC} \\ &= \vec{AC} - \vec{AB} \\ &= \vec{c} - \vec{b}. \end{aligned}$$

(1) F の定め方より,

$$\begin{aligned} \vec{AF} &= \frac{2}{3}\vec{AD} \\ &= \frac{2}{3}(\vec{c} - \vec{b}). \end{aligned}$$

また,

$$\begin{aligned} \vec{BD} &= \vec{AD} - \vec{AB} \\ &= \vec{c} - 2\vec{b}. \end{aligned}$$

さらに, E の定め方より,

$$\begin{aligned} \vec{AE} &= \vec{AC} + \vec{CE} \\ &= \vec{AC} + \frac{1}{3}\vec{CD} \\ &= \vec{c} - \frac{1}{3}\vec{b}. \end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned} \vec{EF} &= \vec{AF} - \vec{AE} \\ &= \frac{2}{3}(\vec{c} - \vec{b}) - \left(\vec{c} - \frac{1}{3}\vec{b}\right) \\ &= -\frac{1}{3}(\vec{b} + \vec{c}). \end{aligned}$$

(2) $AL \parallel BD$ より,

$$\vec{AL} = k\vec{BD}$$

とおけるので, (1) の結果より,

$$\vec{AL} = -2k\vec{b} + k\vec{c}. \quad \dots \textcircled{1}$$

また, L は直線 EF 上の点であるから,

$$\vec{EL} = t\vec{EF}$$

とおける.

このとき,

$$\vec{AL} = \vec{AE} + t\vec{EF}.$$

(1) の結果より,

$$\vec{AL} = \left(-\frac{1}{3}t - \frac{1}{3}\right)\vec{b} + \left(1 - \frac{1}{3}t\right)\vec{c}. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より,

$$\begin{cases} -2k = -\frac{1}{3}t - \frac{1}{3}, \\ k = 1 - \frac{1}{3}t. \end{cases}$$

これを解くと,

$$k = \frac{4}{9}, \quad t = \frac{5}{3}.$$

したがって,

$$\vec{EL} = \frac{5}{3}\vec{EF}$$

であるから,

$$EF : FL = 3 : 2.$$

(3) P が直線 AE と BF の交点であるから,

$$\begin{cases} \vec{AP} = \alpha\vec{AE}, \\ \vec{BP} = \beta\vec{BF} \end{cases}$$

とおける.

これと (1) より,

$$\begin{cases} \vec{AP} = -\frac{1}{3}\alpha\vec{b} + \alpha\vec{c}, \\ \vec{AP} = \left(1 - \frac{5}{3}\beta\right)\vec{b} + \frac{2}{3}\beta\vec{c}. \end{cases}$$

これより,

$$\begin{cases} -\frac{1}{3}\alpha = 1 - \frac{5}{3}\beta, \\ \alpha = \frac{2}{3}\beta \end{cases}$$

であるから,

$$\alpha = \frac{6}{13}, \quad \beta = \frac{9}{13}.$$

したがって,

$$\begin{cases} \vec{AP} = \frac{6}{13}\vec{AE}, \\ \vec{BP} = \frac{9}{13}\vec{BF} \end{cases}$$

であるから,

$$AP : PE = 6 : 7, \quad BP : PF = 9 : 4.$$

12-13 (j16-3)

座標平面上で O を原点とし, 直線 $l_1 : y = 2x$ 上の点 P と直線 $l_2 : y = -2x$ 上の点 Q の中点を $M(x, y)$ とする. P, Q が内積 $\vec{OP} \cdot \vec{OQ} = 3$ を満たしながら, それぞれ l_1, l_2 上を動くとき, 点 M の軌跡の方程式を x, y を用いて表せ.

P, Q の定め方より,

$$P(p, 2p), \quad Q(q, -2q)$$

とおけるから, $M(x, y)$ の定め方より,

$$\begin{cases} x = \frac{1}{2}(p+q), \\ y = p-q. \end{cases}$$

これより,

$$\begin{cases} p = \frac{1}{2}(2x+y), \\ q = \frac{1}{2}(2x-y). \end{cases}$$

また, $\vec{OP} \cdot \vec{OQ} = 3$ より,

$$pq + 2p(-2q) = 3$$

$$pq = -1. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より,

$$\frac{1}{4}(4x^2 - y^2) = -1$$

... ①

であるから, M の軌跡の方程式は,

$$x^2 - \frac{y^2}{4} = -1.$$

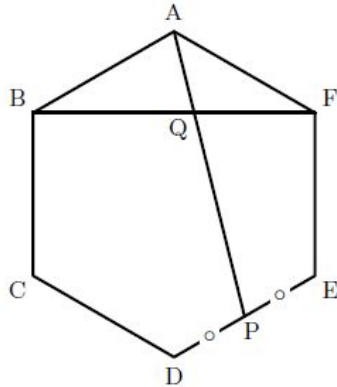
12-14 (j24-2)

正六角形 $ABCDEF$ において, 辺 DE の中点を P とし, 線分 AP と BF の交点を Q とする.

(1) \vec{AP} を \vec{AB} と \vec{AF} を用いて表せ.

(2) $AQ : QP$ を最も簡単な整数比で表せ.

(3) $|\vec{AB}| = 1$ のとき, 三角形 BPQ の面積を求めよ.



(1) P が辺 DE の中点であることから、

$$\begin{aligned} \vec{AP} &= \frac{1}{2}(\vec{AD} + \vec{AE}) \\ &= \frac{1}{2}\{2(\vec{AB} + \vec{AF}) + (\vec{AB} + 2\vec{AF})\} \\ &= \frac{3}{2}\vec{AB} + 2\vec{AF}. \end{aligned}$$

(2) Q が線分 AP 上にあるから、実数 k を用いて、

$$\vec{AQ} = k\vec{AP}$$

とおけるから、(1) の結果を代入すると、

$$\vec{AQ} = \frac{3}{2}k\vec{AB} + 2k\vec{AF}.$$

このとき、点 Q が線分 BF 上にある条件は、

$$\frac{3}{2}k + 2k = 1$$

であるから、

$$k = \frac{2}{7}.$$

したがって、

$$\begin{aligned} \text{AQ} : \text{QP} &= k : (1 - k) \\ &= 2 : 5. \end{aligned}$$

(3) (2) の結果より、

$$\begin{aligned} \triangle \text{BPQ} &= \frac{5}{7} \triangle \text{ABP} \\ &= \frac{5}{7} \triangle \text{ABD} \\ &= \frac{5}{7} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{3} \\ &= \frac{5\sqrt{3}}{14}. \end{aligned}$$

12-15 (j25-3)

ベクトル \vec{a} , \vec{b} が、

$$|\vec{a}| = 1, \quad |\vec{b}| = 2, \quad |\vec{a} + 2\vec{b}| = 2\sqrt{3}$$

を満たすとき、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b} = (\quad)$ である。

また、 \vec{a} , \vec{b} のなす角を θ とするとき、 $\cos \theta = (\quad)$ となる。

これを解くと、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = -\frac{5}{4}.$$

したがって、

$$\begin{aligned} \cos \theta &= \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} \\ &= -\frac{5}{8}. \end{aligned}$$

$$|\vec{a} + 2\vec{b}| = 2\sqrt{3} \text{ より、}$$

$$|\vec{a} + 2\vec{b}|^2 = 12$$

$$|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2 = 12$$

であるから、 $|\vec{a}| = 1$, $|\vec{b}| = 2$ より、

$$1^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4 \cdot 2^2 = 12.$$

12-16 (s25-3)

三角形 OAB において、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$ とするとき、

$$|\vec{a}| = 1, \quad |\vec{a} + \vec{b}| = |2\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{7}$$

が成り立つ。

- (1) $|\vec{AB}|$ の値を求めよ。
- (2) 点 P が三角形 OAB の外接円上を動くとき、三角形 PAB の面積の最大値を求めよ。
- (3) 点 Q が O を中心とし、半径 $|\vec{OA}|$ の円上を動くとき、三角形 QAB の面積の最大値を求めよ。

(1) $|\vec{a} + \vec{b}| = |2\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{7}$ より、

$$\begin{cases} |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 7, \\ 4|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 7. \end{cases}$$

これと $|\vec{a}| = 1$ より、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = -\frac{3}{2}, \quad |\vec{b}| = 3.$$

したがって、

$$\begin{aligned} |\vec{AB}|^2 &= |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 \\ &= 13 \end{aligned}$$

であるから、

$$|\vec{AB}| = \sqrt{13}.$$

(2) (1) より、

$$\cos \angle AOB = -\frac{1}{2}$$

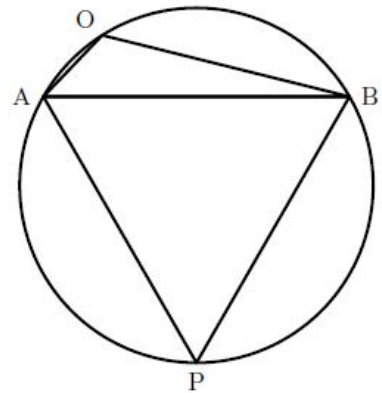
であるから、

$$\angle AOB = 120^\circ.$$

したがって、三角形 PAB の面積が最大となるのは三角形 PAB が正三角形となるとき。

よって、求める最大値は、

$$\frac{\sqrt{3}}{4} (\sqrt{13})^2 = \frac{13\sqrt{3}}{4}.$$



(3) 辺 AB を底辺と見ると、三角形 QAB の面積が最大となるのは、Q から直線 AB に下ろした垂線の長さが最大となるとき。

ここで、最大となるときの垂線の足を H とすると、O は直線 QH 上にあり、Q と H は O に関して反対側にある。

したがって、

$$\Delta OAB = \frac{1}{2} |\vec{AB}| |\vec{OH}|$$

であるから、(1) より、

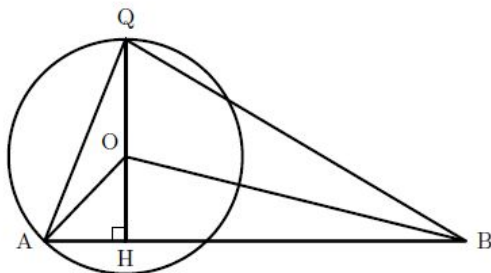
$$\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 3 \sin 120^\circ = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{13} |\vec{OH}|.$$

これより、

$$|\vec{OH}| = \frac{3\sqrt{3}}{2\sqrt{13}}.$$

以上より、三角形 QAB の面積の最大値は、

$$\frac{1}{2} \cdot \sqrt{13} \left(1 + \frac{3\sqrt{3}}{2\sqrt{13}} \right) = \frac{2\sqrt{13} + 3\sqrt{3}}{4}.$$

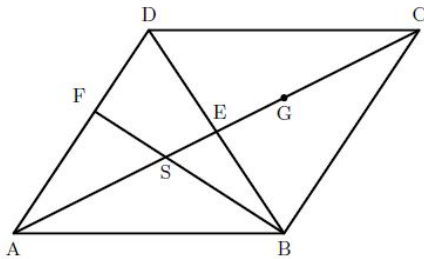


12-17 (j27-3)

平行四辺形 ABCD において、対角線 BD の中点を E、辺 AD を 3 : 2 に内分する点を F とする。 $\vec{AB} = \vec{b}$ 、 $\vec{AD} = \vec{d}$ とするとき、次の問に答えよ。

- (1) 三角形 BCD の重心を G とするとき、 \vec{AG} を \vec{b} 、 \vec{d} を用いて表せ。
- (2) 直線 AE と直線 BF の交点を S とするとき、 \vec{AS} を \vec{b} 、 \vec{d} を用いて表せ。
- (3) 線分 AC の長さが 36 のとき、線分 SG の長さを求めよ。

平行四辺形 ABCD と 4 点 E, F, G, S を図示すると、次の図のようになる。



- (1) G は三角形 BCD の重心であるから、

$$\vec{AG} = \frac{1}{3}(\vec{AB} + \vec{AC} + \vec{AD}).$$
 また、四角形 ABCD が平行四辺形であるから、

$$\vec{AC} = \vec{AB} + \vec{AD}.$$
 したがって、

$$\vec{AG} = \frac{2}{3}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{d}.$$

- (2) S が直線 AE 上の点であるから、

$$\vec{AS} = \alpha\vec{AE}$$

$$= \frac{1}{2}\alpha\vec{b} + \frac{1}{2}\alpha\vec{d}. \quad \dots \textcircled{1}$$

- また、S が直線 BF 上の点であるから、

$$\vec{AS} = (1-\beta)\vec{AB} + \beta\vec{AF}$$

$$= (1-\beta)\vec{b} + \frac{3}{5}\beta\vec{d}. \quad \dots \textcircled{2}$$

①、②より、

$$\begin{cases} \frac{1}{2}\alpha = 1-\beta, \\ \frac{1}{2}\alpha = \frac{3}{5}\beta \end{cases}$$

であるから、

$$\alpha = \frac{3}{4}, \quad \beta = \frac{5}{8}.$$

したがって、

$$\vec{AS} = \frac{3}{8}\vec{b} + \frac{3}{8}\vec{d}.$$

- (3) (1)、(2)の結果より、

$$\begin{aligned} \vec{SG} &= \vec{AG} - \vec{AS} \\ &= \frac{7}{24}(\vec{b} + \vec{d}) \\ &= \frac{7}{24}\vec{AC} \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} SG &= 36 \cdot \frac{7}{24} \\ &= \frac{21}{2}. \end{aligned}$$

12-18 (s31-2)

xy 平面の原点 O を中心とし半径 1 の円 C 上に定点 A をとる. 同じ円上の点 X に対し、平面上の点 Y を

$$\vec{OY} = \vec{OA} - 2(\vec{OA} \cdot \vec{OX})\vec{OX}$$

で定める. ただし, $\vec{OA} \cdot \vec{OX}$ は \vec{OA} と \vec{OX} の内積である.

- (1) $|\vec{OY}| = 1$ であることを示せ.
- (2) $\vec{OY} = -\vec{OA}$ となる点 X をすべて求めよ.
- (3) 点 X が円 C を 1 回まわるとき, 点 Y は同じ円を 2 回まわること示せ.

(1) 2 点 A, X は点 O を中心とする半径 1 の円 C 上の点であるから,

$$|\vec{OA}| = |\vec{OX}| = 1. \quad \dots \textcircled{1} \quad \text{であるから, } \textcircled{3} \text{ は,}$$

さらに,

$$\vec{OY} = \vec{OA} - 2(\vec{OA} \cdot \vec{OX})\vec{OX} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\vec{OA} = \cos \theta \vec{OX}.$$

であるから,

$$\begin{aligned} |\vec{OY}|^2 &= |\vec{OA} - 2(\vec{OA} \cdot \vec{OX})\vec{OX}|^2 \\ &= |\vec{OA}|^2 - 4(\vec{OA} \cdot \vec{OX})^2 + 4(\vec{OA} \cdot \vec{OX})^2 |\vec{OX}|^2 \\ &= 1. \end{aligned}$$

したがって,

$$|\vec{OY}| = 1.$$

これより,

$$|\vec{OA}| = |\cos \theta| |\vec{OX}|$$

であるから, $\textcircled{1}$ より,

$$|\cos \theta| = 1.$$

したがって, $\vec{OY} = -\vec{OA}$ となる点 X は,

$$\vec{OX} = \vec{OA} \text{ または } \vec{OX} = -\vec{OA}$$

を満たす点である.

(2) $\vec{OY} = -\vec{OA}$ のとき, $\textcircled{1}$ より,

$$-\vec{OA} = \vec{OA} - 2(\vec{OA} \cdot \vec{OX})\vec{OX}$$

であるから,

$$(\vec{OA} \cdot \vec{OX})\vec{OX} = \vec{OA}. \quad \dots \textcircled{3}$$

ここで, \vec{OA} と \vec{OX} のなす角を θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) とすると, $\textcircled{1}$ より,

$$\vec{OA} \cdot \vec{OX} = \cos \theta$$

(3) $A(1, 0), X(\cos \theta, \sin \theta)$ とすると, $\textcircled{2}$ より,

$$\vec{OY} = (1, 0) - 2 \cos \theta (\cos \theta, \sin \theta)$$

$$= (1 - 2 \cos^2 \theta, -2 \sin \theta \cos \theta)$$

$$= (-\cos 2\theta, -\sin 2\theta)$$

であるから, 点 X が円 C を 1 回まわるとき, 点 Y は同じ円 C を 2 回まわる.

12-19 (j34-1)

平面上に平行でない 2 つのベクトル \vec{a}, \vec{b} があり, $|\vec{a}| = 4, |\vec{b}| = 3$ とする.

- (1) \vec{a} と $\vec{a} + t\vec{b}$ のなす角と, \vec{b} と $\vec{a} + t\vec{b}$ のなす角が等しくなるように実数 t の値を定めよ.
- (2) $|\vec{a} - 2\vec{b}|$ のとり得る値の範囲を求めよ. また, $|\vec{a} - 2\vec{b}| = 4$ のとき, $\vec{a} \cdot \vec{b}$ の値を求めよ.

(1) \vec{a} と $\vec{a} + t\vec{b}$ のなす角を θ とすると、条件より、

$$\begin{cases} \vec{a} \cdot (\vec{a} + t\vec{b}) = |\vec{a}| |\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta, \\ \vec{b} \cdot (\vec{a} + t\vec{b}) = |\vec{b}| |\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta \end{cases}$$

であるから、

$$\begin{cases} |\vec{a}|^2 + t\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta, \\ \vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 = |\vec{b}| |\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta. \end{cases}$$

$|\vec{a}| = 4$, $|\vec{b}| = 3$ より、

$$\begin{cases} 16 + t\vec{a} \cdot \vec{b} = 4|\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta, \\ \vec{a} \cdot \vec{b} + 9t = 3|\vec{a} + t\vec{b}| \cos \theta. \end{cases}$$

これより、

$$3(16 + t\vec{a} \cdot \vec{b}) = 4(\vec{a} \cdot \vec{b} + 9t)$$

であるから、

$$(3t - 4)(\vec{a} \cdot \vec{b} - 12) = 0.$$

ここで、 \vec{a} と \vec{b} は平行ではないので、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} \neq 12.$$

したがって、

$$t = \frac{4}{3}.$$

(2) \vec{a} と \vec{b} は平行でないことから、

$$||\vec{a}| - 2|\vec{b}|| < |\vec{a} - 2\vec{b}| < |\vec{a}| + 2|\vec{b}|$$

なので、

$$2 < |\vec{a} - 2\vec{b}| < 10.$$

また、 $|\vec{a} - 2\vec{b}| = 4$ のとき、

$$|\vec{a}|^2 - 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2 = 16$$

であるから、

$$16 - 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 36 = 16.$$

したがって、

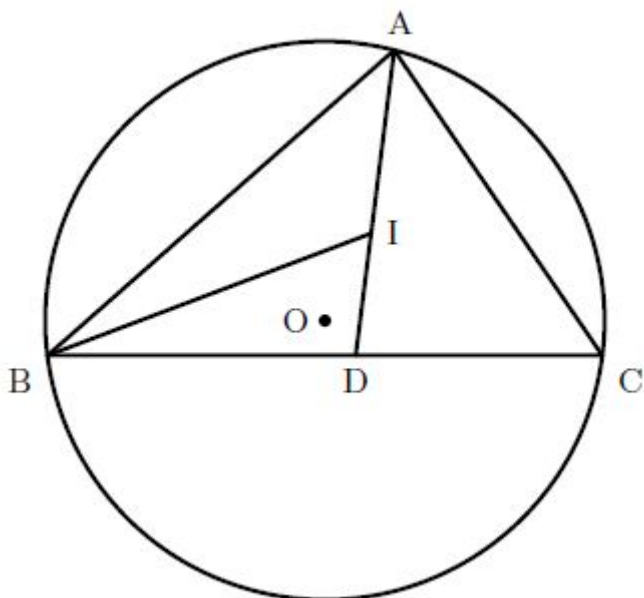
$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 9.$$

12-20 (s39-1)

三角形 ABC において、 $BC = a$, $CA = b$, $AB = c$ とする。また、三角形 ABC の外心を O、内心を I とし、外接円の半径を R とする。

(1) $\vec{OI} = \frac{a\vec{OA} + b\vec{OB} + c\vec{OC}}{a + b + c}$ を示せ。

(2) $|\vec{OI}|^2 = R^2 - \frac{abc}{a + b + c}$ を示せ。



(1) 直線 AI と辺 BC の交点を D とすると、点 I が三角形 ABC の内心であることから、

$$BD : DC = c : b,$$

したがって、

$$\vec{OD} = \frac{b\vec{OB} + c\vec{OC}}{b+c}. \quad \dots \textcircled{1}$$

さらに、

$$\begin{aligned} AI : ID &= c : a \times \frac{c}{b+c} \\ &= (b+c) : a \end{aligned}$$

であるから、

$$\vec{OI} = \frac{a\vec{OA} + (b+c)\vec{OD}}{a+b+c}. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より、

$$\vec{OI} = \frac{a\vec{OA} + b\vec{OB} + c\vec{OC}}{a+b+c}. \quad \dots \textcircled{3}$$

(2) 内積と余弦定理の関係より、

$$\begin{cases} \vec{OB} \cdot \vec{OC} = R^2 - \frac{1}{2}a^2, \\ \vec{OC} \cdot \vec{OA} = R^2 - \frac{1}{2}b^2, \\ \vec{OA} \cdot \vec{OB} = R^2 - \frac{1}{2}c^2. \end{cases} \quad \dots \textcircled{4}$$

さらに、③より、

$$\begin{aligned} |\vec{OI}|^2 &= \frac{1}{(a+b+c)^2} \{a^2|\vec{OA}|^2 + b^2|\vec{OB}|^2 + c^2|\vec{OC}|^2 \\ &\quad + 2ab\vec{OA} \cdot \vec{OB} + 2bc\vec{OB} \cdot \vec{OC} + 2ca\vec{OC} \cdot \vec{OA}\}. \quad \dots \textcircled{5} \end{aligned}$$

④, ⑤と $|\vec{OA}| = |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = R$ より、

$$\begin{aligned} |\vec{OI}|^2 &= \frac{1}{(a+b+c)^2} \{R^2(a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca) \\ &\quad - (a^2bc + ab^2c + abc^2)\} \\ &= \frac{1}{(a+b+c)^2} \{R^2(a+b+c)^2 - abc(a+b+c)\} \\ &= R^2 - \frac{abc}{a+b+c}. \end{aligned}$$

12-21 (s1-2)

平面上に原点 O から出る、異なる 2 本の半直線 OX, OY をとり $\angle XOY < 180^\circ$ とする。半直線 OX 上に O と異なる点 A を、半直線 OY 上に O と異なる点 B をとり、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$ とする。

(1) 点 C が $\angle XOY$ の二等分線上にあるとき、ベクトル \vec{OC} はある実数 t を用いて、

$$\vec{OC} = t \left(\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} + \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|} \right)$$

と表されることを示せ。

(2) $\angle XOY$ の二等分線と $\angle XAB$ の二等分線の交点を P とする。OA = 2, OB = 3, AB = 4 のとき、 \vec{OP} を、 \vec{a} と \vec{b} を用いて表せ。

(1) $\angle XOY$ の二等分線と辺 AB との交点を D とすると、

$$AD : DB = |\vec{a}| : |\vec{b}|$$

であるから、

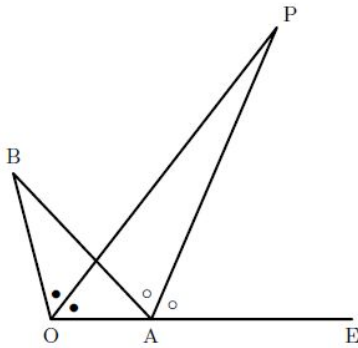
$$\begin{aligned} \vec{OD} &= \frac{|\vec{b}|\vec{a} + |\vec{a}|\vec{b}}{|\vec{a}| + |\vec{b}|} \\ &= \frac{|\vec{a}||\vec{b}|}{|\vec{a}| + |\vec{b}|} \left(\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} + \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|} \right). \end{aligned}$$

これと、C が直線 OD 上にあることから、

$$\vec{OC} = t \left(\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} + \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|} \right)$$

を満たす実数 t が存在する。

(2) 半直線 OX 上に、OE = 6 となる点 E を O に関して A と同じ側にとる。



P は $\angle XAB$ の二等分線上にあるから、(1) より、
 $\vec{AP} = k(\vec{AE} + \vec{AB})$
 を満たす実数 k が存在する。

このとき、

$$\vec{OP} = (k+1)\vec{a} + k\vec{b}. \quad \dots \textcircled{1}$$

また、P は $\angle XOY$ の二等分線上にあるから、(1) より、

$$\vec{OP} = s\left(\frac{\vec{a}}{2} + \frac{\vec{b}}{3}\right). \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②において、 \vec{a} , \vec{b} は 1 次独立であるから、

$$\begin{cases} k+1 = \frac{s}{2}, \\ k = \frac{s}{3}. \end{cases}$$

これを解くと、

$$k = 2, \quad s = 6.$$

したがって、

$$\vec{OP} = 3\vec{a} + 2\vec{b}.$$

12-22 (s9-1)

平面上の三角形 OAB を考え、辺 AB の中点を M とする。

$$\vec{a} = \frac{\vec{OA}}{|\vec{OA}|}, \quad \vec{b} = \frac{\vec{OB}}{|\vec{OB}|}$$

とし、点 P を $\vec{a} \cdot \vec{OP} = -\vec{b} \cdot \vec{OP} > 0$ であるようにとる。直線 OP に A から下ろした垂線と直線 OP の交点を Q とする。

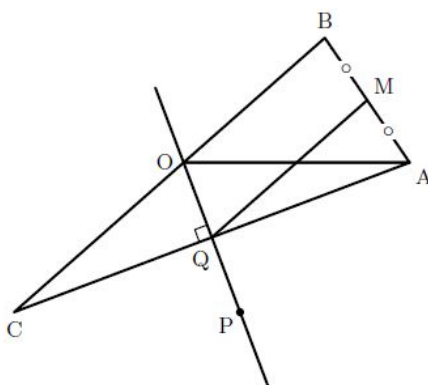
(1) \vec{MQ} と \vec{b} は平行であることを示せ。

(2) $|\vec{MQ}| = \frac{1}{2}(|\vec{OA}| + |\vec{OB}|)$ であることを示せ。

(1) 直線 OB 上に、O に関して B の反対側に、

$$OC = OA$$

を満たす点 C をとる。



このとき、 \vec{a} , \vec{b} , P の定め方より、P は $\angle AOC$ の二等分線上の点であるから、Q は線分 AC の中点である。

したがって、三角形 ABC において考えると、中点連結の定理より、

$$\vec{MQ} \parallel \vec{b}.$$

(2) (1) より、

$$|\vec{MQ}| = \frac{1}{2}|\vec{BC}|$$

であり、

$$|\vec{BC}| = |\vec{OA}| + |\vec{OB}|$$

であるから、

$$|\vec{MQ}| = \frac{1}{2}(|\vec{OA}| + |\vec{OB}|).$$

12-23 (s5-1)

空間に2つの定点 O, A があり, $|\vec{OA}| = 2$ を満たしている. また, 2点 P, Q は次の条件を満たしながら動く.

$$|\vec{OP}| \leq 5, \quad \vec{OP} \cdot \vec{OA} = 6, \quad |\vec{OQ}| = \sqrt{5}, \quad \vec{OQ} \cdot \vec{OA} = -2$$

ただし, $\vec{OP} \cdot \vec{OA}$ は \vec{OP} と \vec{OA} の内積を表す. 次の問に答えよ.

- (1) $|\vec{OP}|$ の最小値を求めよ.
- (2) $|\vec{PQ}|$ のとり得る値の範囲を求めよ.
- (3) 線分 PQ の通過してできる部分の体積を求めよ.

12-24 (j3-4)

座標空間に4点 $A(1, 1, 2), B(2, 0, 1), C(1, 1, 0), D(3, 4, 6)$ がある. 3点 A, B, C の定める平面に関して点 D と対称な点を E とする. 点 E の座標を求めよ.

12-25 (j4-5)

四面体 $OABC$ において,

$$OA = 1, \quad OB = 2, \quad OC = 3, \quad \angle AOB = \angle BOC = \angle COA = 90^\circ$$

であるとする.

- (1) 四面体 $OABC$ の体積は である.
- (2) 四面体 $OABC$ の表面積は である.
- (3) 頂点 O から三角形 ABC までに下ろした垂線の長さは である.
- (4) 四面体 $OABC$ に内接する球の半径は である.
- (5) 四面体 $OABC$ に外接する球の半径は である.

12-26 (s7-2)

a を実数とする. 座標空間内の球面 $S : x^2 + y^2 + z^2 = 1$ と直線

$$l : (x, y, z) = (2, -1, 0) + t(-1, a, a)$$

が異なる 2 点で交わるとする.

- (1) a の値の範囲を求めよ.
- (2) S と l の 2 つの交点の間の距離 d を a を用いて表せ.
- (3) d が最大となるような実数 a の値とそのときの d を求めよ.

12-27 (j8-3)

四面体 OABC において, 三角形 ABC の重心を G, 線分 OG を 3 : 2 に内分する点を D, 直線 BD と平面 AOC の交点を E, 直線 OE と辺 AC との交点を F とする.

このとき,

$$OE : EF = (\quad) : (\quad), \quad BD : DE = (\quad) : (\quad)$$

であり, 2 つの四面体 ABFO, CEFB の体積比は (\quad) : (\quad) である.

12-28 (s8-1)

正四面体 OABC に対して, 3 点 O, A, B と同じ平面上の点 P が $3\vec{OP} = 2\vec{AP} + \vec{PB}$ を満たしている. $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とするとき, 次の間に答えよ.

- (1) \vec{OP} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.
- (2) 三角形 ABC の重心 G と点 P を結ぶ線分が面 OBC と交わる点を Q とする. \vec{OQ} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ.
- (3) 線分 OB 上の点 R に対して, 三角形 PQR が辺 PQ を斜辺とする直角三角形になるとき, $\frac{OR}{OB}$ を求めよ.

12-29 (j9-5)

4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 0, 0)$, $B(1, 1, 1)$, $C(-1, 2, -1)$ を頂点とする四面体 $OABC$ がある. このとき, 三角形 OBC の面積は である.

さらに, 三角形 OBC を含む平面を π とし, 点 A から平面 π に下ろした垂線の足を H とする.

このとき, 点 H は平面 π 上の点であるから, 実数 s, t を用いて,

$$\overrightarrow{OH} = s\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC}$$

とおけ, $\overrightarrow{AH} \perp \pi$ であることを用いて, s, t の値を求めると,

$$s = \text{, } t = \text{$$

である.

したがって, 四面体 $OABC$ の体積は である.

また, 四面体 $OABC$ に外接する球の半径は である.

12-30 (j13-4)

xyz 空間における原点 $O(0, 0, 0)$ を中心とする半径 1 の球面に内接する正四面体 $ABCD$ があり, 点 A の座標は $(0, 0, 1)$ とする. 点 B は xz 平面内にあり, 点 B の x 座標と, 点 C の y 座標は正とする.

- (1) ベクトル \overrightarrow{OA} はベクトル \overrightarrow{BC} に垂直であることを示せ.
- (2) 正四面体 $ABCD$ の一辺の長さを求めよ.
- (3) 正四面体 $ABCD$ の頂点 B, C, D の座標を求めよ.

12-31 (s13-2)

すべての面が合同な三角形である四面体 OABC を考える. この四面体について,

$$OA = \sqrt{3}, \quad OB = 2, \quad OC = \sqrt{5}$$

とする.

- (1) 内積 $\vec{OA} \cdot \vec{OB}$, $\vec{OB} \cdot \vec{OC}$, $\vec{OC} \cdot \vec{OA}$ の値をそれぞれ求めよ.
- (2) 点 O から 3 点 A, B, C を含む平面に下ろした垂線を OH とするとき, \vec{OH} を \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} を用いて表せ.
- (3) 四面体 OABC の体積を求めよ.

12-32 (s16-1)

xyz 空間の中で, $(0, 0, 1)$ を中心とする半径 1 の球面 S を考える. 点 Q が $(0, 0, 2)$ 以外の S 上を動くとき, 点 Q と点 $P(1, 0, 2)$ の 2 点を通る直線 l と平面 $z = 0$ との交点を R とする. R の動く範囲を求め, 図示せよ.

12-33 (s17-4)

空間に原点 O を中心とする球 S があり, S の表面上に異なる点 A, B, C, D がある.

$$3\vec{OA} + 4\vec{OB} + 5\vec{OC} = \vec{0}, \quad \vec{AB} \parallel \vec{CD}$$

のとき, 次の問に答えよ.

- (1) \vec{CO} を \vec{CA} と \vec{CB} を用いて表せ.
- (2) 長さの比 $AB : CD$ を求めよ.

12-34 (s24-1)

四面体 OABC において, $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とする.

$$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{1}{2}, \quad \vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{1}{2}, \quad \vec{c} \cdot \vec{a} = \frac{2}{3}$$

のとき, 次の間に答えよ.

- (1) 辺 BC を $t : (1-t)$ の比に分ける点を Q, 線分 AQ を $s : (1-s)$ の比に分ける点を P とする. \vec{OP} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} と s , t を用いて表せ.
- (2) \vec{OP} が平面 ABC と垂直になるとき, s , t の値を求めよ.
- (3) 四面体 OABC の体積を求めよ.

12-35 (s26-2)

原点を O とする座標空間において, 2点 A(3, 3, 4), B(1, 0, 0) がある.

条件 $|\vec{AP}| = 1$ かつ $\vec{OB} \cdot \vec{AP} = 0$ を満たす点 P の集合を C とする.

また, 条件 $|\vec{OQ}| = 1$ を満たす点 Q の集合を S とする.

- (1) Q を S 上の点とすると, $|\vec{AQ}|$ の最大値と最小値を求めよ.
- (2) P を C 上の点とし, Q を S 上の点とする. $|\vec{PQ}|$ の最大値と最小値を求めよ.

12-36 (j28-4)

空間に球面 $S : x^2 + y^2 + z^2 - 4z = 0$ と定点 A(0, 1, 4) がある.

- (1) 球面 S の中心 C の座標と半径を求めよ.
- (2) 直線 AC と xy 平面との交点 P の座標を求めよ.
- (3) xy 平面上に点 B(4, -1, 0) をとるとき, 直線 AB と球面 S の共有点の座標を求めよ.
- (4) 直線 AQ と球面 S が共有点をもつように点 Q が xy 平面上を動く. このとき, 点 Q の動く範囲を求めて, それを xy 平面上に図示せよ.

12-37 (s33-3)

h は正の定数で, xyz 座標空間において, 次の 4 点 A, B, C, H がある.

$$A(1, 0, 0), \quad B\left(-\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}, 0\right) \quad C\left(-\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2}, 0\right), \quad H(0, 0, h)$$

球面 S の中心は z 軸上にある. さらに, 4 点 A, B, C, H の 2 点を通る 6 つの直線はどれも球面 S に接していて, すべての接点は四面体 $ABCH$ の 6 つの辺上にある.

- (1) 球面 S の半径 r を h の関数として表せ.
- (2) h が範囲 $h > 0$ で動くとき, 球面 S の半径 r の最小値を求めよ.

12-38 (s35-4)

四面体 $OABC$ は,

$$OA = BC = 5, \quad OB = 2\sqrt{5}, \quad AC = \sqrt{5}, \quad \vec{OA} \cdot \vec{OB} = 10$$

を満たす. 四面体 $OABC$ の体積の最大値を求めよ.

12-39 (s38-4)

点 $(7, 6, 4)$ を中心とする半径 3 の球があり, その表面は鏡でできているものとする. いま, 方向ベクトル $(3, 2, 1)$ をもつ光が原点から発射されたとする. この光は, 球面のどの点で反射し, xy 平面とどの点で交わるか. ただし, 球面での反射はその点での法線と入射光線を含む平面内で起こり, 入射角と反射角は等しいとする.

12-40 (s40-2)

原点を O とする座標空間において、3点 $A(2, 2, -1)$, $B(3, 2, 0)$, $C(2, 3, 0)$ の定める平面を α とする。また、原点 O から平面 α に垂線を下ろし、 α との交点を Q とする。

- (1) 点 Q の座標を求めよ。
- (2) $\angle OAQ = \theta$ とする。 $\cos \theta$ の値を求めよ。
- (3) a, b, c は実数とし、点 P は次の式を満たすとする。

$$\vec{OP} = a\vec{OA} + b\vec{OB} + c\vec{OC}$$

点 P が $a + b + c = 0$ かつ $|\vec{OP}| = 1$ を満たしながら動くとき、内積 $\vec{OP} \cdot \vec{OA}$ の最大値を求めよ。

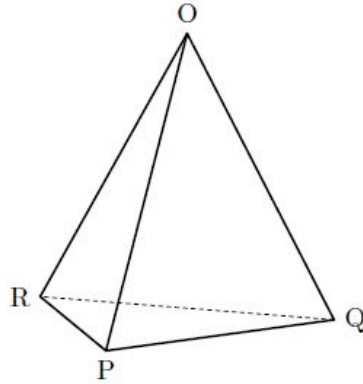
12-41 (s43-3)

座標空間において、3点 $P(0, 3, 3)$, $Q(3, 0, 3)$, $R(3, 3, 0)$ を通る平面を L とし、三角形 PQR の L 内の外接円を C とする。また、点 $A(8, -7, -7)$ を中心とする半径 r の球面を S とする。 S と L の交わりは円 D になり、かつ C と D は外接している。

- (1) C の中心 G の座標と半径を求めよ。
- (2) D の中心 H の座標を求めよ。
- (3) r を求めよ。

12-42 (j39-5)

四面体 OPQR において、点 P, Q, R の点 O を基準とする位置ベクトルをそれぞれ \vec{p} , \vec{q} , \vec{r} とおく。OP = 4, OQ = $3\sqrt{2}$, OR = $2\sqrt{7}$ であり、 $\vec{p} \cdot \vec{q} = \vec{q} \cdot \vec{r} = \vec{r} \cdot \vec{p} = 12$ であるとする。



辺 OP 上の点 X を、直線 QX と辺 OP が垂直であるようにとり、辺 OQ 上の点 Y を、直線 PY と辺 OQ が垂直であるようにとる。

(1) 実数 a を用いて $\vec{OX} = a\vec{p}$ と表す。このとき、 $\vec{QX} = \boxed{\text{ア}} \vec{p} - \vec{q}$ である。直線 QX と辺

OP が垂直であるから、 $a = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$ であり、 $\vec{RX} \cdot \vec{OP} = \boxed{\text{エ}}$ である。

同様に $\vec{OY} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{q}$ であり、 $\vec{RY} \cdot \vec{OQ} = \boxed{\text{キ}}$ である。

(2) 直線 QX と直線 PY との交点を H とする。 \vec{OH} を \vec{p} , \vec{q} を用いて表すと

$$\vec{OH} = \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} \vec{p} + \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}} \vec{q}$$

である。辺 OR 上に点 Z をとり、実数 s を用いて $\vec{OZ} = s\vec{r}$ と表す。3 点 P, Q, Z の定める平面を α とし、直線 HR と平面 α との交点を K とする。実数 t を用いて $\vec{HK} = t\vec{HR}$ と表す。

このとき

$$\vec{OK} = \left(\boxed{\text{シ}} - t \right) \left(\frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} \vec{p} + \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}} \vec{q} \right) + t\vec{r}$$

である。一方、 \vec{OK} は実数 k, l を用いて $\vec{OK} = \vec{OP} + k\vec{PZ} + l\vec{PQ}$ と表される。これから、

$$t = \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}}} \frac{s}{s}$$

直線 PZ と辺 OR が垂直であるとき、 $s = \frac{\boxed{\text{ソ}}}{\boxed{\text{タ}}}$ であり、 $t = \frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}$ である。